

# 平成22年度 高知大学公開講座

## 「自然と文化」ご案内

主 催 高知大学国際・地域連携センター生涯学習部門

共 催 中土佐町教育委員会

- 日 時 第1回 6月30日(水) 午後7:15~9:00  
第2回 7月7日(水) 午後7:30~9:00  
第3回 7月14日(水) 午後7:30~9:00  
第4回 7月21日(水) 午後7:30~9:00  
第5回 7月28日(水) 午後7:30~9:15
- 場 所 第1~3回「中土佐町大野見保健福祉センター」、第4~5回「中土佐町民交流会館」  
\*1回~3回目と4回~5回目で会場が異なります。ご注意ください。

### ○講座テーマ:「もうちょっと、龍馬を知ろう」

#### 第1回 龍馬と土佐藩

高知県立坂本龍馬記念館 主任学芸員 みうら なつき 三浦 夏樹

#### 第2回 龍馬と幕末明治の土佐の絵師たち

高知県立美術館 学芸員 ごとう まさこ 後藤 雅子

#### 第3回 明智光秀と龍馬

高知大学国際・地域連携センター 教授 さかもと せつお 坂本 世津夫

#### 第4回 坂本乙女のオンリー・ワン・スピリッツ

エッセイスト(高知新聞朝刊連載「はちきん修行記・訪ねて候」他) わたなべ るみ 渡辺 瑠海

#### 第5回 :「今に生きる龍馬」~龍馬の魅力を考える~

高知県立坂本龍馬記念館 学芸員 まえだ ゆきえ 前田 由紀枝

### ○募集人員 30人(\*受講料は無料です)

受講される方にはテキストを頒布し、3回以上出席された方には修了証書を授与します。

○お申し込み 中土佐町教育委員会(TEL0889-57-2023)へ、6月29日(火)までにお申し込みください。(当日の参加も可能ですが、できるだけ事前にお申し込みください。)

### ○少しでも、高知大学国際・地域連携センター、生涯学習部門の商業

高知大学国際・地域連携センター、生涯学習部門では、いろいろな学習の場を提供しています。なんでも、お気軽にご相談下さい。

お問い合わせ先: 高知大学国際・地域連携センター生涯学習部門

TEL: 088-844-8454 FAX: 088-844-8556

E-mail: [sakamoto@cc.kochi-u.ac.jp](mailto:sakamoto@cc.kochi-u.ac.jp) (坂本)

\*ホームページも見てね URLは → <http://www.kochi-u.ac.jp/~wwwlife/index.html>

# 講座題目・講師一覧

月 日	時間	講座の内容と講師
6月30日(水)	19:15 ～ 19:30	<b>開 講 式</b>
	19:30 ～ 21:00	<b>龍馬と土佐藩</b> <span style="float: right;"><b>三浦 夏樹</b></span> 龍馬が抱いていた藩や日本に対する考え方について、好対照である武市半平太の考え方と対比しながら説明いたします。龍馬は藩に対する忠義や親・先祖に対する孝行より、朝廷を中心とした日本全体のことを考えるべきだと主張して脱藩しました。逆に武市は忠義と孝行を重んじ、藩に拘り続けました。同じ下級武士の出身であるのに、なぜ違う考えを持つようになったのか。また、藩を捨てたはずの龍馬が、慶応3年には土佐藩と手を結びます。脱藩後の龍馬は、土佐藩のことをどう考えていたのか、などを紹介いたします。
7月 7日(水)	19:30 ～ 21:00	<b>龍馬と幕末明治の土佐の絵師たち</b> <span style="float: right;"><b>後藤 雅子</b></span> 龍馬が活躍し礎を築いた幕末・明治。高知では絵金が土佐独特の芝居絵屏風を展開し、龍馬に航海通商策を教えたといわれる絵師・河田小龍が舶来物の絵の具や遠近法、写実的な表現などを作品に取り入れています。一方で壬生水石や徳弘董斎、橋本小霞ら伝統的な流れを汲む南画の絵師たちも活躍しました。小龍は、アメリカから帰国したジョン万次郎の異国での体験を聞き書きした『漂異紀畧』を著し、維新の志士たちとも交流するなど、絵師としてだけでなく知識人としても名を馳せました。他にも龍馬に砲術を、武市瑞山に絵を教えた徳弘董斎や龍馬の義兄・高松小埜など、龍馬ら維新の志士と関わりの深い絵師たちは数多くいます。土佐を舞台に繰り広げられた小龍、絵金をはじめとする様々な絵師たちの幅広い画業と交流をご紹介します。
7月14日(水)	19:30 ～ 21:00	<b>明智光秀と龍馬</b> <span style="float: right;"><b>坂本 世津夫</b></span> 坂本龍馬は、本能寺の変で織田信長を討った明智光秀の子孫であるという説がある。龍馬が生まれた坂本家の家紋は「組合い角」という形の、中央に桔梗をかたどったものであるが、この桔梗の形が明智家の家紋「桔梗紋」と同じである。本能寺の変の後、明智光春は自決して子どもたちは全国に散り散りとなって隠れ住んだ。その一人が坂本太郎五郎で、土佐で坂本家を起こした。しかし、太郎五郎が光春の息子であると立証されず、長らく仮説ととらえられてきたが、光春の本妻の墓が南国市亀岩にあった。関が原の戦い前まで土佐を治めた長宗我部家は、3代続けて明智の重臣でもある美濃の斎藤家から妻を迎えている。明智(土岐氏)は土佐に地縁があった。戦国時代の土佐は、今までの歴史観(イメージ)を覆す可能性が出てきた。
7月21日(水)	19:30 ～ 21:00	<b>坂本乙女のオンリー・ワン・スピリッツ</b> <span style="float: right;"><b>渡辺 瑠海</b></span> 坂本龍馬を育て上げた姉、乙女。龍馬が最も慕った女性は風変わりで、龍馬よりも更に個性的。当時土佐ではこの姉にして龍馬ありと言われた、別名「坂本のお仁王さま」乙女の生活のこだわりや、親友・武市富子(武市半平太の妻)との交友。そして龍馬との知られざるエピソードや武勇伝をご紹介します。また、姪の春猪はなぜ龍馬たちに「おやべ」と呼ばれていたのか? その驚くべきニックネーム由来の考察も織り交ぜながら、坂本家に受け継がれる「優しさとユーモア」「オンリー・ワン・スピリッツ」に迫ります。
7月28日(水)	19:30 ～ 21:00	<b>「今に生きる龍馬」～龍馬の魅力を考える～</b> <span style="float: right;"><b>前田 由紀枝</b></span> 今年はNHK大河ドラマ「龍馬伝」の影響もあって、高知はもちろん、各地で“龍馬フィーバー”が再燃している。なぜ今、龍馬なのか? 龍馬とは何者なのか? 龍馬という人は時代の求めによって、小説やドラマで何度も蘇った。死んで140年以上経った今、ますます生き生きとしている感じがする。時代は何を龍馬に求めているのだろう。龍馬の手紙や資料から龍馬の魅力を探り、今に生きる私たちへのメッセージを考えていく。
	21:00 ～ 21:15	<b>閉 講 式</b> (修了証書授与)